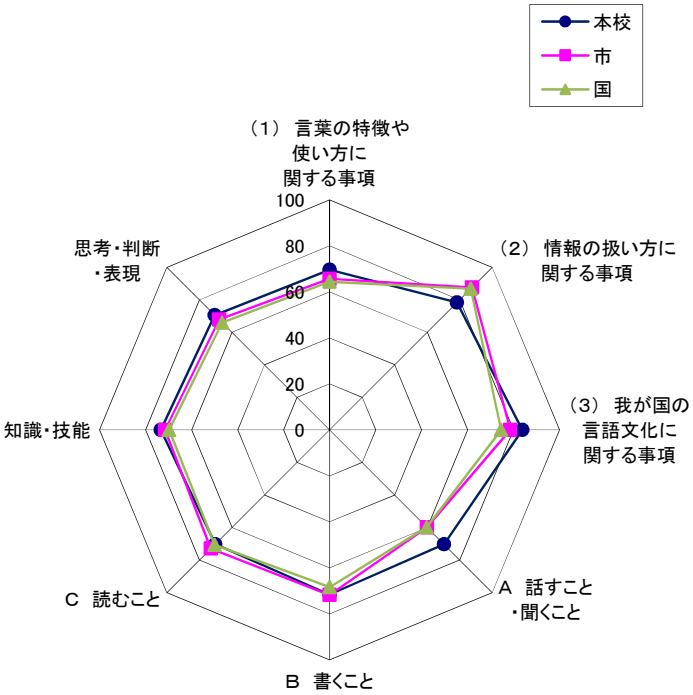


宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	69.6	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	78.4	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.8	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	70.3	59.9	59.8
	B 書くこと	71.6	71.8	68.4
	C 読むこと	70.3	72.9	70.7
観点	知識・技能	73.4	71.5	69.8
	思考・判断・表現	70.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市や国より高い。 ○「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、学習の中で繰り返し日本語の文法に触れてきた成果である。 ●「話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	・今後も日本語の文法を理解する力を伸ばしていけるよう、学習の中で意図的に触れるようにする。 ・作文指導や話し合い活動、日常会話の中で、話し言葉と書き言葉の違いを繰り返し指導する。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市や国より低い。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・原因と結果など、情報と情報の関係を考える課題を設定する。 ・図などによる様々な関係の表し方に触れることを通して、考えを明確にしたり思考をまとめたりすることができることを理解し、図示できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や国より高い。 ○「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、日頃から読書活動に励み、その良さを体感しているからである。	・今後も図書室を積極的に活用し、読書活動や調べ学習で本に触れる機会を確保していくようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や国より高い。 ○「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、国語の授業だけでなく、他教科にわたり、児童自身の言葉で自らの考えを表現する活動に取り組んできた成果である。	・今後も国語の授業だけでなく他教科にわたり、話し手が伝えたいことを考えながら聞いたり、相手に伝わるように話したりできるような場を意図的に設定していくようにする。
B 書くこと	平均正答率は、市とほぼ同じで、国より高い。 ○「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。	・今後も目的や意図をはっきりさせて、資料をうまく使いながら自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れていく。

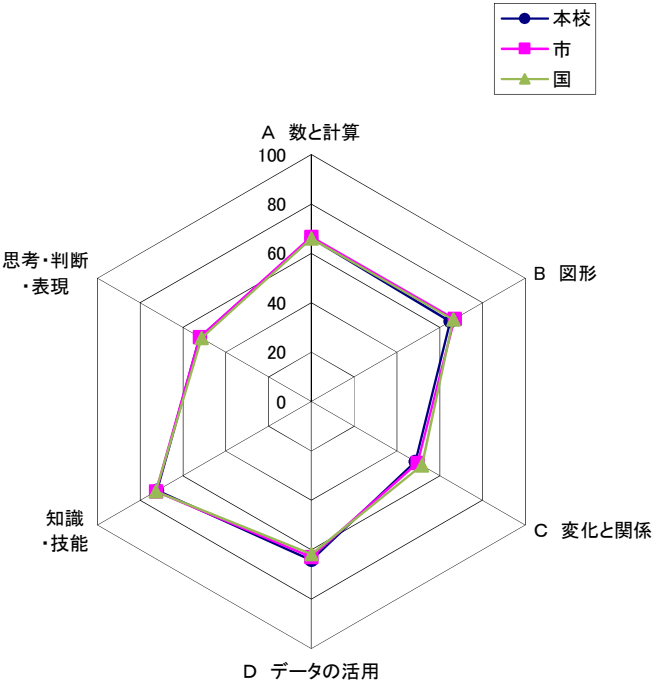
C　読むこと	平均正答率は、市より低く、国とほぼ同じである。 ○「登場人物の相互関係や心情などについて、描写をモ基に捉えることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率よりやや高い。登場人物の心情や関係を図などに表す経験を重ねてきた成果である。 ●「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・今後も、物語の登場人物の様子について図や言葉でまとめ表現する活動を意図的に設定していく。 ・物語の文章全体の構造が把握できるように、場面ごとの要点をおさえたり、山場をおさえたりしながら、文章全体を読み取る視点を育んでいく。
--------	--	--

宇都宮市立雀宮東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.2	66.7	66.0
	B 図形	64.9	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	48.6	49.6	51.7
	D データの活用	64.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	52.1	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市よりやや低く、国とほぼ同じである。 ○「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、繰り返し計算問題に取り組んできた成果であると考えられる。 ○「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「示された情報を基に、表から必要な情報を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低い。	・小数の計算も含め、四則計算についてよく理解している。引き続き、授業での学習や朝の学習で計算練習を積み重ねていく。 ・基準量と比較量を基に理論的に立式したり、筋道を立てて説明したりすることができるよう繰り返し練習問題に取り組むなど、指導の充実を図っていく。
B 図形	平均正答率は、市より低く、国よりやや低い。 ○「球の直径の長さ立方体の一面の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、図形の基本的な性質を学習する際に、図形の性質について理解の定着を図ってきた成果である。 ●「立方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。 ●「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	・球の性質や立方体の体積を求めるために必要な要素についてよく理解していた。今後も多くの図形について、繰り返し問題に取り組ませ、力を伸ばしていく。 ・立体について、構成要素に着目して見取り図をかくことができるよう、練習に取り組ませ、理解を深めていく。 ・円周の公式を正しく理解するとともに、正確に計算することができるよう繰り返し指導する。
C 変化と関係	平均正答率は、市よりやや低く、国より低い。 ●「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。 ●「速さの意味について理解しているかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	・道のりが等しい場合には、かかった時間が短い方が速いという判断はできても、それを言葉で説明できていない。自分の考えを相手に分かるように説明する学習の機会を多く設定していく。 ・速さを求めるにあたりデータが1つではなく複数ある場合に、数量関係に着目して変化の規則性を捉え、図や表、式を関連付けて解決できるよう、繰り返し問題に取り組ませ理解を深めていく。

D データの活用	平均正答率は、市よりやや高く、国より高い。 ○「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。これは、算数や社会科等の学習を通して様々なグラフを読む経験を積んだ成果である。 ○「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より高い。 ●「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問いでは、国の正答率より低く、課題が見られる。	・グラフや表を読み取る力は定着してきている。これからも、算数・社会科・総合的な学習の時間を中心に他教科にわたり、資料を適切に読み取ることができるよう、学習の機会を設けていく。 ・グラフを読み、その数値からどのようなことが分かるかを考えたりそれらを用いて推測したりし、それを言葉で説明する力が不十分であった。グラフや表の読み取りからその意味をしっかりと捉え、考えを深める学習に取り組ませていく。
----------	---	--

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日30分以上勉強をする」と回答した児童の割合は（94.7％）で、国の平均より13.1ポイント上回った。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日1時間以上勉強をする」と回答した児童の割合は（76.3％）で、国の平均より27.7ポイント上回った。家庭学習の充実に取り組んだ成果が出ていると考えられる。今後も、保護者と協力しながら児童の家庭学習を励ましていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合は（84.2％）で、国の平均より8.4ポイント上回った。また、「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することによって、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した児童の割合は（94.7％）で、国の平均より8.6ポイント上回った。学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進め、児童相互の考えの良さと相違点について考えさせる活動など学び合いの場を工夫してきた成果が出ていると考えられる。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問で、「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した児童の割合は（100％）で、国の平均より14.5ポイント上回った。1人1台端末を授業や児童会活動など、様々な活動で活用してきた成果であると考えられる。今後も1人1台端末を有効活用していきたい。

○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童の割合は（79％）で、国の平均より11.4ポイント上回った。家庭学習や授業において、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養ってきた成果が出ていると考えられる。今後も引き続き日記、作文指導に取り組んでいきたい。

●「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合は（81.6％）で、国の平均を6.6ポイント下回った。今後は、道徳の授業だけでなく、他教科にわたり、話し合い活動により学びが深まる授業づくりに取り組んでいきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学校課題で1人1台端末の効果的な活用について研究を進めている。	・1人1台端末を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。	・「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することによって、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という問いでは、県や国の肯定回答率より高い。
・日記、作文指導	・家庭学習で、学年に応じた学校指定の用紙に、日記や作文を書き、書く力を養う。	・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」という問いでは、県や国の肯定回答率より高い。
・家庭学習の充実	・全校児童統一のファイルに、自主学習記録カードと音読カードを貼り、毎日の学習の記録をつける。家庭のサインと担任のサインを毎日記入し、児童の学習を励ます。	・「1日あたりの学習時間」の問いでは、県や国の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数の「図形」と「自分の考えを言葉と数を用いて説明すること」に課題が見られた。	・学習コーナーの活用	・教室の学習コーナーに既習事項を掲示し、図形の性質について、理解を深められるようにする。
	・自分の考えを言葉や数を用いて、分かりやすく書いたり伝えたりする。	・どの教科においても、自分の考えを形成する場を意図的に設定し、分かりやすくノートにまとめたり、友達に伝えたりする時間を確保する。